

弟子屈町 令和8年度 アイヌ政策推進交付金事業計画 変更内訳

1. 今回の変更事業

【内容変更】

- (3) コミュニティ活動支援事業
台湾原住民族文化交流事業

2. 変更内容

【内容変更】

- (3) コミュニティ活動支援事業
台湾原住民族文化交流事業
台湾への訪問団人数を増加（10名→14名）、訪問行程の一部変更に伴う空路及び宿泊数の増加、その他航空運賃等の諸経費高騰に伴い事業費を変更する。

3. 変更増減額

【内容変更】

- (3) コミュニティ活動支援事業
台湾原住民族文化交流事業（変更）
3,000千円の増（5,000千円→8,000千円）
（経費の内訳）

本事業は一括して補助金として支出するためその内訳を記載する。

【交付金対象】 合計 6,989,110 円（交付金額【6,989,110 円×80%】=5,591,000 円）

○旅費（交通費、宿泊費等エージェント手配分）

【変更前】 3,080,000 円 → 【変更後】 5,003,230 円（1,923,230 円の増）

○旅費（弟子屈町条例準用分他）

・参加者の確定に伴う交通費の費用弁償、日当、旅行雑費（パスポート交付費用）

【変更前】 0 円 → 【変更後】 377,100 円（377,100 円の増）

・弟子屈町条例に基づく支度金：1人 70,070 円

【変更前】 10名 700,700 円→ 【変更後】 14名 980,980 円（280,280 円の増）

○通訳・コーディネート費用

【変更前】 150,000 円 → 【変更後】 154,000 円（4,000 円の増）

○民族衣装借用・儀礼関連・交流関連等経費

【変更前】 1,000,000 円 → 【変更後】 373,800 円（626,200 円の減）

○その他消耗品等諸経費

【変更前】 69,300 円 → 【変更後】 100,000 円（30,700 円の増）

【交付金対象外】 合計 1,010,890 円

・需用費 100,500 円（記念品、会食代、外貨交換手数料）

・予備費 910,390 円

4. 事業計画変更箇所

(3) コミュニティ活動支援事業

4 事業の概要

8 収支予算

9 経費の区分

別表 1 収支計画

別表 5 資金計画

アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	弟子屈町アイヌ施策推進事業
2 事業の種類	(文化振興事業) (地域・産業振興事業) (コミュニティ活動支援事業)
3 事業の目的	アイヌ文化等の次世代への継承を確実なものとするとともに、地域特有のアイヌ文化等を発信し、内外におけるアイヌ関連の交流活動を活発化させ、魅力ある地域社会の形成と活動の活性化を目標とする。
4 事業の概要	(1)文化振興事業 ■屈斜路コタンアイヌ文化普及啓発活動・伝承者育成活動事業 ○事業実施主体 弟子屈町 ○事業の実施場所 屈斜路コタン地区 ○委託先(プログラム作成及び活動支援) コンサルタント会社 ○事業の実施期間 令和7年4月～令和12年3月 ○事業の内容と考え方 屈斜路コタン地域特有のアイヌ文化技術を伝承していくため、舞踊、工芸、料理などの文化体験を通して学習できる機会を創出する。また、近年は伝承文化の担い手不足や高齢化により次世代への継承が課題となっていることから、人材育成(踊り、工芸等の担い手)や、アイヌ文化に関連するガイドツアーの試行及び担い手育成を実施する。 ■チャシ跡等遺跡調査及び文化財保存活用事業 ○事業実施主体 弟子屈町 ○事業の実施場所 弟子屈町内 ○委託先(調査・保存活動支援) コンサルタント会社、北海道大学 ○事業の実施期間 令和9年4月～令和12年3月 ○事業の内容と考え方 屈斜路コタン地区におけるアイヌ文化を色濃く残すチャシ跡の詳細な調査を実施し、出土遺物の保存・公開により、歴史的・地域資源としての有効活用を推進する。 ■屈斜路コタンアイヌ文化技術伝承資料制作ほか関連事業 ○事業実施主体 弟子屈町 ○事業の実施場所 弟子屈町内 ○委託先(活動支援) コンサルタント会社 ○事業の実施期間 令和8年4月～令和12年3月 ○事業の内容と考え方

	アイヌ民族の技術伝承を行っていくためのマニュアル作成や、ガイドブックなど広報資料を作成する手法を学ぶと共に、屈斜路コタンアイヌ文化伝承拠点施設（アイヌ民族資料館、多機能型生活館、チセなど）での展示や実演等、アイヌの伝統文化への理解を深めるための様々な取り組みを実施する。 ■屈斜路コタンアイヌ文化関連展示資料及び案内サイン等作製事業 ○事業実施主体 弟子屈町 ○事業の実施場所 屈斜路コタン地区 ○委託先（資料作製・展示設計） コンサルタント会社 ○事業の実施期間 令和9年4月～令和10年3月 ○事業の内容と考え方 屈斜路コタンアイヌ民族資料館は開館から40年が経過し、展示の更新が必要な時期を迎えていることから、屈斜路コタン地域独自の特色あるアイヌ文化を伝承していくため、展示方法及び展示資料の全体的なリニューアルを行う。 また、拠点施設（アイヌ民族資料館、多機能型生活館、チセ等）全体を対象とした案内サインや屋外開設板の作製も並行して行い、屈斜路コタン地域全体を博物館とするエコミュゼのコンセプトを取り入れる。 (2)地域・産業振興事業 ■弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館改修事業 ○事業実施主体 弟子屈町 ○事業の実施場所 屈斜路コタン地区 ○委託先（実施設計） 設計コンサルタント会社 ○事業の実施期間 令和7年4月～令和10年3月 ○事業の内容と考え方 弟子屈町におけるアイヌ文化振興の重要拠点であるアイヌ民族資料館の魅力を高めるため、既存棟の改修による施設の再整備を行い、資料展示の充実や開館の通年化による入館者の増加を図る。 ■弟子屈町屈斜路コタンチセ建設事業 ○事業実施主体 弟子屈町 ○事業の実施場所 屈斜路コタン地区 ○委託先（設計） 設計コンサルタント会社 ○事業の実施期間 令和9年4月～令和11年3月 ○事業の内容と考え方 かつて屈斜路コタン地区に存在したチセについては、老朽化等の事情により平成24年に撤去されたが、チセはアイヌの伝統文化の象徴的存在であり、イチャルパ等の伝統儀礼を執り行う場としても重要となる存在であることから、チセの復活を要望する地域の声も多く、近接する多機能型生活館やアイヌ民族資料館と一
--	--

	体的な屈斜路コタンアイヌ文化伝承拠点施設として新たに建設する。 ■屈斜路コタンアイヌ文化交流施設建設事業 ○事業実施主体 弟子屈町 ○事業の実施場所 屈斜路コタン地区 ○委託先(実施設計) 設計コンサルタント会社 ○事業の実施期間 令和9年4月～令和11年3月 ○事業の内容と考え方 屈斜路コタンアイヌ民族資料館の改修に併せ、地域に住むアイヌの人々が民族としての誇りをもって生活することができるよう、各々が製作した工芸品の販売スペースや文化伝承・体験スペース等を設けるなど、生活向上や文化交流・民族理解を深めることが可能なアイヌ文化拠点の一翼を担う施設として新たに整備する。 (3)コミュニティ活動支援事業 ■高齢者(エカシ・フチ)活動支援事業 ○事業実施主体 弟子屈町 ○事業の実施場所 屈斜路コタン地区 ○委託先(活動支援) コンサルタント会社 ○事業の実施期間 令和7年4月～令和11年3月 ○事業の内容と考え方 エカシ・フチからの聞き取りによって得られる地域の歴史や文化などの記憶の掘り起こしを行い、記録・保存し、体験学習や地域交流活動に活用することで文化の伝承に貢献する。 ■多機能型生活館周辺整備事業 ○事業実施主体 弟子屈町 ○事業の実施場所 屈斜路コタン地区 ○事業の実施期間 令和7年9月～令和8年3月 ○事業の内容と考え方 新たに整備した多機能型生活館の外構敷地のバリアフリー化や、地域外からの来訪者を多く受け入れるための駐車場の造成など生活館やウタリ自然公園の周辺整備による利便性の向上を図る。 ■台湾原住民族文化交流事業 ○事業実施主体 台湾原住民族交流事業実行委員会(弟子屈町補助) ○事業の実施場所 台湾屏東県霧台郷及び弟子屈町コタン地区
--	---

	○事業の実施期間 令和8年4月～令和12年3月 ○委託先 旅行代理店 ○事業の内容と考え方 弟子屈町長ほか町内在住のアイヌ民族の方々を含めた交流団による実行委員会形式で台湾原住民族ルカイ族との文化交流を進める。また、霧台郷魯凱文物館とアイヌ民族資料館との相互協力関係の構築を目指す。
5 アイヌ施策推進地域計画における記載	4-1 アイヌ文化の保存又は継承に資する事業 ■屈斜路コタンアイヌ文化普及啓発活動・伝承者育成活動事業 古くからアイヌ民族が暮らす屈斜路コタン地区における伝承文化の掘り起こしから得られた伝承や踊り、歌、技術などを広く人々に伝えるため、文化伝承活動の実施(踊り継承、丸木舟製作などの体験学習)や舞踊、工芸、食事などの体験を通して学習できる機会を設ける。 また、近年は担い手不足や高齢化により次世代への文化継承が大きな課題となっており、それらの課題を解決するため、人材育成(踊り、工芸、ガイド等の担い手育成)とガイドツアーの試行(モニターツアーの実施等)を実施する。 ■遺跡調査(チャシ跡等)及び文化財保存活用事業 屈斜路コタン地区とその周辺地域におけるアイヌ文化を色濃く残していると考えられるチャシ跡の調査を実施し、試掘や出土遺物の保存を行い、歴史的・地域資源としての有効活用を推進する。 また、出土遺物等の保存処理・活用に取り組み、得られた成果をアイヌ民族資料館等で公開する。 4-2 アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業 ■アイヌ文化技術伝承資料製作ほか関連事業 アイヌ民族の技術伝承を行っていくためのマニュアルやガイドブックなどの広報資料を製作する手法と共に、アイヌ文化伝承拠点施設(アイヌ民族資料館、多機能型生活館、チセなど)での展示や実演等、アイヌの伝統に関する理解を深めるための様々な取り組みを実施する。 ■屈斜路コタン・アイヌ文化関連展示資料及び案内サイン等作製事業 アイヌ民族資料館は開館から40年以上に渡り地域のアイヌ文化を紹介する施設として運営してきたが、展示資料や解説パネル等の更新が必要な時期を迎えてきている。屈斜路コタンという地域の特色を生かしたアイヌ文化を伝承していくためアイヌ民族資料館の展示資料の全体的なリニューアルを行う。そのための展示方法の検討、資料作成を経て、公開を行う。また拠点施設全体を対象とした案内サインや屋外解説版の作製、設置も並行して行い、地域全体を博物館とするエコミューゼのコンセプトを取り入れながら進める。 4-3 観光の振興その他の産業の振興に資する事業 ■弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館改修事業 弟子屈町におけるアイヌ文化振興の重要拠点であるアイヌ民族資料館の魅力を高める為、既存棟の改修及び増築による施設の再整備を行うことで展示の充実や入館者の増加を図り、さらにはアイヌの人々の製作による民芸品等の販売など観光資源としての魅力向上に資する機能も備えた施設として整備する。 既存棟は収蔵スペースの拡大、通年開館に向けた断熱工事や空調設備の配備を含め施設全体の改修工事を行う。増築棟には工芸品の販売スペースや文化体験スペースを新たに設け、バリアフリートイレも設置して利便性を高めるとと

	もに入館者数の増加を図る。 ■屈斜路コタンアイヌ文化交流施設建設事業 アイヌ文化交流施設は、地域のアイヌの人々が民族としての誇りをもって生活することができるよう、各々が製作した工芸品の販売スペースや文化伝承・体験スペース等を設けるとともに、バリアフリースペースも設置することで利便性を高めた施設として、来訪者と地域のアイヌ民族との交流や理解を深める機能を有した施設として整備する。 ■屈斜路コタンチセ建設事業 屈斜路コタン地区には数々のアイヌ儀礼で祭祀を務めた日川善次郎エカシが建てたチセが存在したが、老朽化等の事情により平成24年6月に撤去されている。以降、イチャルパ等の儀礼は生活館等で行われてきたが、チセの復活を要望する地域の声も多く、屈斜路コタンで行われてきたイチャルパなどのアイヌ儀礼行事を伝統的な方法で執り行うための施設として新たにチセを建設する。 4-4 地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業 ■高齢者(エカシ・フチ)コミュニティ活動支援活動 エカシ・フチへの聞き取り及び伝承文化の掘り起こしを行い、地域特有のアイヌ文化の内容を記録・保存する。 ■多機能型生活館周辺整備事業 令和6年度に整備した多機能型生活館(施設名:屈斜路古丹生活館)の地域外からの利用者のための駐車場を確保し、多くの来訪者に対応できる環境整備によって生活館やウタリ自然公園における人々の交流を活性化させる。併せて、高齢者や身障者の利便性向上を図るため、身障者駐車場や車椅子通路を整備する。 ■台湾原住民族文化交流事業 本町と連携協定の覚書を締結している台湾屏東県霧台郷の原住民族とアイヌ民族の方々を中心とする多岐にわたる人材交流を通じ、それぞれの文化の継承・発展に活かす取組を行う。
6 事業の成果目標等	
(1)成果目標の達成に向けた工程	(1)文化振興事業 ■屈斜路コタンアイヌ文化普及啓発活動事業 ■屈斜路コタンアイヌ文化伝承者育成活動事業 ■チャシ跡等遺跡調査及び文化財保存活用事業 ■アイヌ文化技術伝承資料製作ほか関連事業 ■屈斜路コタン・アイヌ文化関連展示資料及び案内サイン等作製事業 (2)地域・産業振興事業 ■弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館改修事業 ■屈斜路コタンチセ建設事業 ■屈斜路コタンアイヌ文化交流施設建設事業 上記7事業は、屈斜路コタン地域におけるアイヌ文化の発信やアイヌ文化に触れる機会の創出としてハード・ソフト両面の充実によって来訪者の増加を図り、アイヌ文化への理解を広めることによってアイヌの人々の誇りが尊重される社会の実現を目指す事業であり、とりわけアイヌ民族資料館のリニューアルと新たに整備するチセについては、各種文化振興事業を組み入れて活用することによって、地域における文化伝承と観光振興の両面に大きく貢献する施設となる。

	(3)コミュニティ活動支援事業 ■高齢者(エカシ・フチ)コミュニティ活動支援事業 ■多機能型生活館周辺整備事業 ■台湾原住民族文化交流事業 上記3事業は、屈斜路コタン地域に暮らすエカシ・フチをはじめとする地域住民のコミュニティ活動の活性化や、アイヌ文化活動を軸とした人々の交流及び民族間交流を活発化させることにより共生社会の実現を目指すものであり、アイヌの人々の活動拠点となる多機能型生活館の利用を促進することが大きな成果を生むものと考えられる。
(2)成果目標、(中間)目標年度(成果目標に対する現状値、及び成果目標の達成見込みについて記載すること)	(1)文化振興事業、(2)地域・産業振興事業 ■地域内でのアイヌ民族文化体験学習者数 (現状値) 令和6年度 21人／年間 (中間目標値) 令和9年度 70人／月平均 (最終目標) 令和11年度 100人／月平均 ■屈斜路コタンアイヌ民族資料館入館者数 (現状値) 令和6年度 6,864人／年間 (中間目標値) 令和9年度 (改修工事) (最終目標) 令和11年度 10,000人／年間 ■屈斜路コタンチセ利用者数 (現状値) 令和6年度 — (中間目標値) 令和9年度 (実施設計) (最終目標) 令和11年度 200人／年間 (3)コミュニティ活動支援事業 ■生活館利用者数 (現状値) 令和6年度 656人／年間(旧生活館利用者数) (中間目標値) 令和9年度 6,310人／年間 (最終目標) 令和11年度 6,330人／年間 ■国際交流事業への参加者(訪問者・被招聘者・受入団体を含む) (現状値) 令和6年度 — (中間目標値) 令和9年度 30人／年間 (最終目標) 令和11年度 30人／年間
(3)成果目標の確認方法	KPIである地域内でのアイヌ文化体験学習参加者数、屈斜路コタンアイヌ民族資料館入館者数、屈斜路コタンチセ利用者数、生活館利用者数、国際交流事業参加者数について実績値を公表する。また役場内にアイヌ文化振興に関する庁内会議を設置し、目標達成状況について検証を行い、改善点を踏まえて計画期間内の事業実施等に反映する。
7 地域の概要	
(1)地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題	弟子屈町においては、町名である「テシカガ」の由来が「テシカ(岩盤)」「ガ(上)」とアイヌ語であるように、札友内(サットモナイ≡サリトモナイ「サリ(湿地)」「トム(中)」「オ(…にある)」「ナイ(小川)」)、屈斜路(クッシャロ≡クツチャロ「湖の水が流れ出る川口」と町内のほとんどの地名がアイヌ語を語源としており今も数多く残されている。 本町のアイヌ文化の歴史的な遺構として代表されるチャシ跡についても、屈斜路湖の湖畔から町の中心を縦断する釧路川流域等を中心に8箇所あり、町全域がアイヌの人々が住む地域となっていたことがわかり、本町は現在もそのアイヌ子孫が数多く住む地域となっている。 中でも本町の屈斜路コタンは、屈斜路湖の南東の湖畔に位置し、一級河川釧路川の源流部に隣接するとともに、阿寒摩周国立公園内にあり、コタン温泉や近隣には国有林野や農地が広がっており、アイヌの人々が最も多く住む地域である

	。 屈斜路コタンの遺跡は、釧路川流域の最も奥に位置する縄文早期の集落址であり、狩猟、漁労、採集を中心とする独自の縄文文化は6世紀頃まで続き7世紀に入り擦文文化期を迎える。この中で現在のアイヌ文化の原型がみられ、それに続く13～14世紀頃にかけて、狩猟、漁労、採集や一部には簡単な農耕を行う中で、自然との関わりが深く、交易を行うアイヌの文化の特色が形成された。 現在、屈斜路コタンには「屈斜路コタンアイヌ民族資料館」があり、厳しい自然との関わりの中で培われてきたアイヌの人々の生活の歴史などが紹介されている。近年の入館者数については最盛期の約20%まで減少しているものの、外国人の利用者が急増しており、展示内容の充実やソフト面の対策が求められる。 また、1858年に松浦武四郎一行が調査のため屈斜路コタンに泊まりアイヌの人々と親交があったことから、同地区には「武四郎の歌碑」が建立され、歴史を伝えている。 文化振興としては弟子屈アイヌ協会、弟子屈町屈斜路古丹アイヌ文化保存会などにより、アイヌ文化の紹介や伝承活動などが行われてきた経緯もあり、今後も同地区が先住民族であるアイヌの人々の心のよりどころとなるとともに、町内外や地域の人々との交流する空間として発展することが望まれる。 しかし、近年ではアイヌ協会等の構成員の高齢化等による脱退者の増加などのため減少しており、アイヌ文化等の担い手が不足するなど、次世代への円滑な継承が課題となっている。更にはアイヌの人々の活動や生活の拠点となってきた古丹生活館や共同浴場が老朽化によって著しく利用に支障を来すなど、改修への要望が多くなっていた。こうした屈斜路コタン地区の課題を解消し、アイヌ文化等の拠点地区として振興を図るべく、地域のニーズや実情を把握しながら、令和4年1月に「屈斜路コタン地区アイヌ文化等拠点整備事業計画」を策定して年次的にアイヌ関連施設の再整備やアイヌ文化伝承活動の取り組みを進めることとし、令和6年度には古丹生活館と共同浴場の移転改築として両施設の機能を併せ持つ屈斜路コタン多機能型生活館を新たに整備している。
(2)施設等の管理運営体制	屈斜路コタン地区の屈斜路コタンアイヌ民族資料館及び古丹生活館(令和7年4月より屈斜路コタン多機能型生活館に移転)は弟子屈町が管理している。
(3)アイヌ関係団体及び地域住民の協力体制	弟子屈アイヌ協会及び弟子屈町屈斜路古丹アイヌ文化保存会については、町の担当課が総会に出向くなど、定期的に意見交換を行っている。しかし、近年、両組織については諸事情により脱会する会員がみられ、地域における組織加入率については、概ね半数程度と推察される。 このため、地域計画の基となる「屈斜路コタン地区アイヌ文化等拠点整備事業計画」の策定に当たっては、地域のアイヌの人々へのアンケート調査や地域懇談による意見交換を行って地域課題の解決に向けた認識の共有を図り、計画内容についての了解を得ている。また町全体としての意思共有を図るため各関係団体の代表者等で構成するアイヌ文化等振興事業計画策定町民委員会の設置により計画を進め、地域全体としての合意形成を図っている。

8 収支予算

(1)収入の部

(単位：円)

区分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (前年度精算額)	比較増減	
			増	減
国庫補助金	12,613,000	76,606,000	0	-63,993,000
市町村負担金	4,165,000	19,152,000	0	-14,987,000
その他	0	0	0	0
計	16,778,000	95,758,000	0	-78,980,000

(2)支出の部

(単位：円)

経費区分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (前年度精算額)	比較増減	
			増	減
(1)文化振興事業	8,063,000	10,260,000	0	-2,197,000
報償費	0	0	0	0
需用費	0	0	0	0
使用料賃借料	0	0	0	0
委託費	8,063,000	10,260,000	0	-2,197,000
備品購入費	0	0	0	0
(2)地域・産業振興事業	0	51,730,000	0	-51,730,000
委託料	0	51,730,000	0	-51,730,000
(3)コミュニティ活動支援事業	8,715,000	33,768,000	0	-25,053,000
委託料	715,000	900,000	0	-185,000
補助金	8,000,000	0	8,000,000	0
工事請負費	0	32,868,000	0	-32,868,000
合 計	16,778,000	95,758,000	0	-78,980,000
報償費	0	0	0	0
需用費	0	0	0	0
使用料賃借料	0	0	0	0
委託費	8,778,000	62,890,000	0	-54,112,000
補助金	8,000,000	0	8,000,000	0
工事請負費	0	32,868,000	0	-32,868,000
備品購入費	0	0	0	0